

平成26年8月

市町村母子保健担当者 様

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班

研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

福島県担当研究責任者 福島県立医科大学小児科教授 細矢 光亮

「平成26年度 被災地の子どもの発育状況等に関する調査」の開始について

まだまだ暑いこの頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

平成26年度最終調査にご協力いただけるとのお返事ありがとうございました。

早速、東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班（福島県担当研究責任者 福島県立医科大学小児科教授 細矢光亮）による調査を開始させていただきます。

正式な「依頼書」と「個人情報取扱特記事項」を同封します。

宜しく願い申し上げます。

公立大学法人福島県立医科大学医学部小児科学講座 小野敦史

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

TEL : 024-547-1295 FAX : 024-548-6578

E.mail : a-ono@fmu.ac.jp

平成 26 年 8 月

福島市長 小林 香 様

公立大学法人 福島県立医科大学



理事長 菊地 臣一

「被災地の子どもの発育状況に関する調査」の開始について（依頼）

まだまだ暑いこの頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

先日、ご連絡申し上げました通り、東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班（福島県担当研究責任者 福島県立医科大学小児科教授細矢光亮）による調査を開始させていただきます。

つきましては、下記の方法で調査を行いますので、ご協力をお願いいたします。

1 調査期間 平成 26 年 8 月 25 日～平成 26 年 10 月 17 日

2 調査方法 調査のためのデータ収集については、業者へ委託して実施いたします。

委託業者は「株式会社 仙台三川」であり、派遣社員が貴施設内で、

健診票から別紙のとおり、体重・身長等のデータを転記します。

「株式会社 仙台三川」から日程調整の連絡がありますので宜しくお願いします。

（日程調整上、調査期間が延長する可能性もありますが、その場合はご了承ください。）

3 「株式会社 仙台三川」連絡先について

〒 980-0011

住所 宮城県仙台市青葉区上杉 1 丁目 6 番 10 号

電話番号 022-263-0432（代）

FAX番号 022-263-0438（代）

Eメールアドレス t-terashima@s-mitsukawa.co.jp

代表者名 寺嶋 強

派遣される社員名 寺嶋 強（代表）、他数名

4 個人情報の取り扱いについて

公立大学法人 福島県立医科大学 理事長 菊地臣一（以下「甲」という）と株式会社 仙台三川 代表取締役 寺嶋 強（以下「乙」という）とは、平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金の交付を受けて調査研究を実施する成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「東日本大震災被災地の子どもの発育状況等に関する調査」に関わる業務の受委託につき契約を締結しています。

この契約の中で、「乙は、本業務の内容、進捗及び成果に関して、甲との事前の協議なくして第三者に漏らしてはならない」「乙は、この契約による業務を行うため個人情報を取り扱うにあたっては、別記「個人情報取り扱い特記事項」を守らなければならない」と定め情報の管理を行います。

なお、事故発生の場合の対処につきましては、福島県立医科大学医学部で責任をもって対処いたします。また、収集した情報は、標記事業以外には使用いたしません。

5 その他

ご不明な点があれば、下記までご連絡をお願いします。

公立大学法人 福島県立医科大学医学部小児科学講座 小野敦史

〒 960-1295 福島県福島市光が丘 1

電話番号 024-547-1295 FAX 024-548-6578

Email a-ono@fmu.ac.jp

## 個人情報取扱特記事項

(平成26年8月)

### (基本的事項)

第1条 「福島県立医科大学（以下「委託者」という。）」がこの契約において個人情報を取り扱わせる者「株式会社 仙台三川（以下「受託者」という。）」は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いにあたっては、個人情報の保護に関する条例等を遵守し、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報を適正に取り扱わなければならない。

### (個人情報の秘密保持)

第2条 受託者は、この契約による事務の処理に従事している者に対し、この契約による事務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用しないよう必要かつ適切な監督を行わなければならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

### (再委託の禁止等)

第3条 受託者は、この契約による事務を処理するための個人情報を自ら取り扱うものとし、第三者に取り扱わせてはならない。ただし、あらかじめ、委託者の書面による承諾を得た場合はこの限りではない。

### (適正な管理)

第4条 受託者は、この契約による事務に係る個人情報の漏えい、滅失、き損及び改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

### (収集の制限)

第5条 受託者は、この契約による事務を処理するために個人情報を収集するときは、当該事務を処理するために必要な範囲内で、適正かつ公正な手段により収集しなければならない。

### (目的外利用の禁止等)

第6条 受託者は、委託者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務に係る個人情報を当該事務を処理する目的以外に利用してはならない。

## 資料 4B

(複写、複製の禁止)

第7条 受託者は、あらかじめ委託者の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による事務を処理するにあたって、委託者から提供された個人情報が記録された資料等を個人が特定できるような記載のまま複写又は複製してはならない。

(資料等の返還)

第8条 受託者は、この契約による事務を処理するために、受託者が収集し、複製し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約が終了し、又は解除された後直ちに委託者に引き渡すものとする。ただし、委託者が別に指示したときは、当該方法によるものとする。

(報告、資料の提出等)

第9条 委託者は、個人情報を保護するために必要な限度において、受託者に対し、個人情報を取り扱う事務について管理状況の説明若しくは資料の提出を求めることができる。

(事故発生時等における報告)

第10条 委託者は、受託者が個人情報取扱注意事項に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。

平成26年8月

市町村母子保健担当者 様

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班

研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

福島県担当研究責任者 福島県立医科大学小児科教授 細矢 光亮

「平成26年度 被災地の子どもの発育状況等に関する調査」の開始について

まだまだ暑いこの頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

平成26年度最終調査にご協力いただけるとのお返事ありがとうございました。

早速、東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班（福島県担当研究責任者 福島県立医科大学小児科教授 細矢光亮）による調査を開始させていただきます。

これまでと同様にデータ転記・発送を宜しくお願いします。

正式な「依頼書」と「調査表」の入ったCDを同封します。

調査対象：

“平成22年6月1日～平成23年4月30日生まれの子ども”の

「出生時、3・4か月、6・7か月もしくは9・10か月、1歳6か月、3歳もしくは3歳6か月」の健診データのをお願いします。※ 身長の単位は全てcmとし、少数第1位まで記載をお願いします。※ 1歳6か月健診と3歳・3歳6か月健診では、体重の単位をkgとし、少数第1位まで記載をお願いします。

※ 健診の時期的な都合上、3歳もしくは3歳6か月健診が未受診となる場合が多数あるかと思いますが、その場合は1歳6か月健診の記載までで結構です。

提出期限：

平成26年10月17日まで

ご不明な点があれば、下記までご連絡ください。

宜しく願い申し上げます。

公立大学法人福島県立医科大学医学部小児科学講座 小野敦史

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

TEL：024-547-1295 FAX：024-548-6578

E.mail：a-ono@fmu.ac.jp

平成26年8月

葛尾村長 松本 允秀 様

公立大学法人 福島県立医科大学  
理事長 菊地 臣一

公印

「平成26年度 被災地の子どもの発育状況等に関する調査」の開始について

まだまだ暑いこの頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

先日ご連絡申し上げました通り、東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班（福島県担当研究責任者 福島県立医科大学小児科教授 細矢光亮）による調査を開始させていただきます。

これまでと同様にデータ転記・発送を宜しくお願いします。

調査対象：

“平成22年6月1日～平成23年4月30日生まれの子ども”の  
「出生時、3・4か月、6・7か月もしくは9・10か月、1歳6か月、3歳もしくは3歳6か月」  
の健診データの入力をお願いします。

※ 身長単位は全てcmとし、少数第1位まで記載をお願いします。

※ 1歳6か月健診と3歳・3歳6か月健診では、体重単位をkgとし、  
少数第1位まで記載をお願いします。

※ 健診の時期的な都合上、3歳もしくは3歳6か月健診が未受診となる場合が多数ある  
かと思いますが、その場合は1歳6か月健診の記載までで結構です。

提出期限：

平成26年10月17日まで

ご不明な点があれば、下記までご連絡ください。

宜しくお願い申し上げます。

公立大学法人福島県立医科大学医学部小児科学講座 小野敦史  
〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
TEL：024-547-1295 FAX：024-548-6578  
E.mail：a-ono@fmu.ac.jp

平成26年8月1日

市町村母子保健担当者 殿

厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班  
研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

被災地の子どもたちの発育状況等に関する調査研究 へのご協力をお願い

暑さ厳しき折、皆様方におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、厚生労働省の指定科学研究として、東日本大震災により甚大な被害を受けた東北3県の小児医療中核施設である東北大学小児科、岩手医科大学小児科、そして福島県立医科大学小児科が一致協力して、被災地の子どもたちの発育状況を把握し、被災による影響を明らかにすると共に、今後の被災地の小児保健向上に寄与する目的で始められた標題研究も3年目を迎えることとなりました。

昨年度までに、東北6県の98自治体からご協力をいただき、平成19年3月から8月生まれの子ども14,588人分と平成21年3月から8月生まれの子ども15,445人分のデータを収集しました。〇〇〇市の子どもたちのデータは被災地3県の子どもたちのデータと比較するために有効に活用させていただきます。

本年度の調査は、9月から実施する予定でございます。つきましては、ご担当者のお名前、対象者数を、8月15日（金）までにFAXでご連絡いただきますようお願いいたします。追って詳細をご連絡させていただきます。お忙しいところお手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

東北大学医学部小児科内 /  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究事務局  
担当：田中総一郎  
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1  
TEL：022-717-7285  
FAX：022-717-7290  
HP：<http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/index.html>  
(東北大学小児科のホームページの一番下段からも入れます)

## 平成26年度 調査概要

本調査は、対象者への新たな調査は行わず、3歳児健診を終えた子どもの乳幼児健康診査票のデータの提供のみをお願いしております。また、個人情報除去した既存資料のみを用いる研究のために、個人の同意を得ることを必要としないことを東北大学医学部の倫理委員会にて確認し、研究の承認を得ております。

## 【調査対象】

平成22年6月1日から平成23年4月30日生まれの子ども

## 【調査項目】 別添の調査票の見本をご参照ください。

## ＜出生時＞

性別、生年月日、在胎週数、出生時身長、出生時体重

## ＜乳幼児健診① 3～4ヶ月健診＞

健診日、身長、体重、頭囲、栄養（母乳・混合・人工）

## ＜乳幼児健診② 6～10ヶ月健診＞

健診日、身長、体重、頭囲、栄養（母乳・混合・人工）

## ＜1歳6ヶ月児健診＞

健診日、身長、体重

## ＜3歳児もしくは3歳6ヶ月児健診＞

健診日、身長、体重

※ただし、6月末時点で3歳（6ヶ月）児健診が終了していない場合には、出生時から1歳6ヶ月児健診のデータまでで結構です。

## 【調査方法】

〇〇市で、データ入力された電子媒体を、研究班に送付していただく（昨年と同様）。既存のデータを調査票のフォーマットに合わせる必要はありません。



FAX 番号： 022-717-7290

FAX

送付枚数 1枚（本票を含めて）

東日本大震災被災地の子どもの発育状況等に関する調査研究  
 に関して以下のとおり回答します。

市町村名	
住所及び担当部署名称、〒	
電話： - -	
担当者お名前	
担当者メールアドレス	
調査対象人数の概算	約 人

### 東北大学医学部小児科

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究事務局  
 担当：田中総一郎

お問い合わせ Tel022-717-7289

平成26年8月5日

〇〇町 保健福祉課保健指導係  
ご担当 〇〇〇〇様

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班  
研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

被災地の子どもの発育状況に関する研究 結果のご返却

残暑の候、ますますご発展のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年度にご提供いただきました〇〇町の平成21年3月から8月生まれの子どもの健診データにつきまして、全国水準と比較を行った結果をお送りいたします。どうぞご活用ください。

本年度は、平成22年6月から平成23年4月生まれの子どものデータの提供をお願いする予定でございますので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

[ 研究事務局 ]

東北大学医学部小児科内 /

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究事務局

担当：田中総一郎

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

TEL：022-717-7289

FAX：022-717-7290

HP：<http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/index.html>

(東北大学小児科のホームページの一番下段からも入れます)

## 被災地の子どもの発育状況に関する研究 乳幼児健診調査 結果のご報告

〇〇市の乳幼児健診時の身体計測の結果を集計して、体格標準値\*と比較し、集団としての身体発育を評価した結果をお送りいたします。

グラフに対象児集団の身長や体重の平均値と95%信頼区間、そして乳児身体発育調査の平均値を図示して比較しています。有意差は、表の『平均値の差：P値』の欄の値が、0.05未満であれば統計的に有意差があると判断します。

- 有意差があると判断された場合に考えられること
  - 日本人の体格は一般的に北や東の方で大きく、南や西の方で小さいことがわかっております。
  - 子どもの食欲は、季節の影響も受けやすく、秋など、気候の良いときは、体重をつけやすい傾向にあります。
  - 子どもは季節によっていろいろな病気になります。冬は風邪をはじめとして呼吸器の感染症や、ウイルス性の胃腸炎などにかかりやすいため、むしろ体重が増えにくくなることもあります。
  
- 注意点
  - 同時に図示される中央値（×）と平均値（●）が大きく離れる場合には、とても大きな（あるいは小さな）体重の値の子どもがいて、その子どもの値で平均値が大きく変わっているかもしれないので解釈は慎重にすべきです。

\*体格標準値とは、2000年（平成12年）度に厚生労働省及び文部科学省が発表した身体測定値データから算出した基準値で、日本人小児の体格を評価する際には標準値として用いられています。

平成21年3月～8月生まれの子ども

〇〇市

資料 6

男の子

	新生児		3～4か月				6～7か月				1歳6か月			3歳から3歳6か月		
	出生時 身長	出生時 体重	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	月齢	身長	体重
例数	59	59	59	59	59	59	57	57	57	0	61	61	61	69	69	69
平均値	49.4	3033.6	3.9	63.9	7181.9	41.7	6.0	67.4	7999.3		19.4	81.0	10.8	42.5	96.0	14.9
標準偏差	2.0	389.1	0.5	2.0	820.0	1.5	0.5	2.1	790.4		0.7	2.9	1.5	0.8	3.9	2.1
最大値	53.0	4002.0	5.0	68.0	9485.0	45.0	8.0	73.0	10465.0		22.0	88.0	17.0	46.0	105.0	21.0
中央値	50.0	2968.0	4.0	64.0	7250.0	42.0	6.0	67.0	8045.0		19.0	81.0	11.0	42.0	96.0	15.0
最小値	44.0	2032.0	3.0	58.0	5230.0	38.0	5.0	62.0	6455.0		18.0	75.0	8.0	42.0	88.0	11.0
	(cm)	(g)		(cm)	(g)		(cm)	(g)			(cm)	(kg)		(cm)	(kg)	

女の子

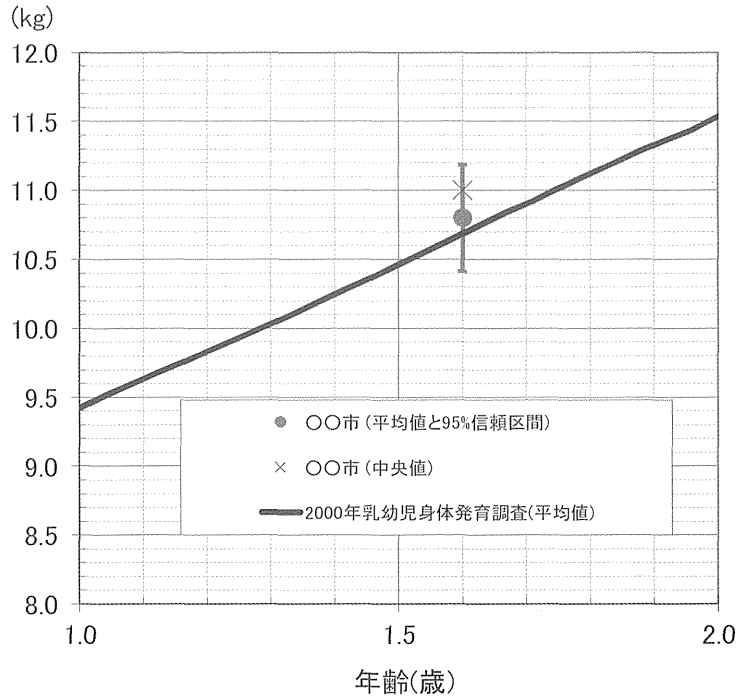
	新生児		3～4か月				6～7か月				1歳6か月			3歳から3歳6か月		
	出生時 身長	出生時 体重	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	月齢	身長	体重
例数	48	48	48	48	48	48	45	45	45	0	53	53	53	62	61	62
平均値	49.2	2999.6	3.8	62.6	6653.5	40.6	6.0	66.3	7564.7		19.5	80.7	10.4	42.5	96.3	14.8
標準偏差	1.8	313.3	0.4	1.8	750.9	1.3	0.5	1.7	915.6		1.0	2.5	1.2	0.6	3.3	2.2
最大値	55.0	3890.0	4.0	67.0	8915.0	44.0	7.0	70.0	9930.0		25.0	87.0	13.0	44.0	106.0	25.0
中央値	49.0	3010.0	4.0	62.0	6627.5	41.0	6.0	66.0	7580.0		19.0	80.0	10.0	42.0	96.0	15.0
最小値	45.0	2256.0	3.0	59.0	5135.0	38.0	5.0	63.0	5855.0		18.0	75.0	8.0	42.0	90.0	11.0
	(cm)	(g)		(cm)	(g)		(cm)	(g)			(cm)	(kg)		(cm)	(kg)	

1歳6か月児健診に基づく集団の評価(男子)  
 ○○市 平成21年3月～8月生まれ

資料 6

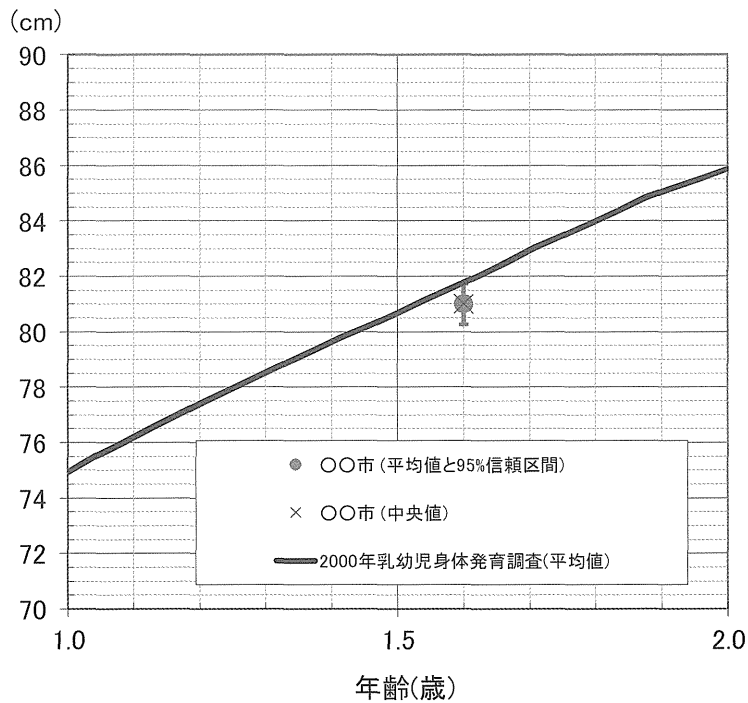
体重kg(男子)

	人数	年齢 平均値	体重			
			平均値	標準偏差	平均値の95%信頼区間	中央値
○○市	61	1.6	10.8	1.5	(10.4-11.2)	11.0
2000年乳幼児身体発育調査			10.7			
			平均値の差: P値=0.552			



身長cm(男子)

	人数	年齢 平均値	身長			
			平均値	標準偏差	平均値の95%信頼区間	中央値
○○市	61	1.6	81.0	2.9	(80.3-81.7)	81.0
2000年乳幼児身体発育調査			81.8			
			平均値の差: P値=0.036			



平成26年12月24日

〇〇市 健康部健康推進課  
ご担当 〇〇〇〇様

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班  
研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

被災地の子どもの発育状況に関する調査研究 結果のご返却

拝啓 歳末の候、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、〇〇市よりご提供いただきました平成22年6月から平成23年4月生まれの子どもの乳幼児健診データにつきまして、全国水準と比較を行った結果をお送りいたしますのでどうぞご活用ください。

当研究班では、3年間にわたりまして収集いたしましたデータをもとに、被災による子どもたちの発育への影響を明らかにし、皆様へご報告させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

末筆ながら、健やかなる新年をお迎えになられますよう、心よりお祈り申し上げます。

敬具

[ 事務局 ]

東北大学医学部小児科内 /

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班事務局

担当：田中総一郎

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

TEL：022-717-7289 FAX：022-717-7290

HP：<http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/index.html>

(東北大学小児科のホームページの一番下段からも入れます)

平成 27 年 2 月 12 日

〇〇市 保健福祉課保健指導係  
ご担当 〇〇〇〇様

厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査  
岩手県 研究分担者 岩手医科大学医学部小児科教授 千田 勝一  
データ収集担当 ■■■■■・■■■■■

被災地の子どもの発育状況に関する研究 〇〇町のデータ集計

向春の候、ますますご発展のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年までにご提供いただきました〇〇町の平成 19 年 3 月から 8 月生まれの子ども、平成 21 年 3 月から 8 月生まれの子ども、平成 22 年 6 月から平成 23 年 4 月生まれの子どもの健診データにつきまして、『月齢ごとの例数・平均値・標準偏差・最大値・中央値・最小値』をまとめたデータをお送りいたします。またご参考用として、『体格標準値（2000 年乳幼児身体発育調査）と比較を行ったグラフ』も添付しております。

本研究全体についてのまとめは、東北大学医学部小児科で平成 27 年度中に作成を行い、完成し次第、事務局よりお送りする予定です。

3 年間にわたってのデータ収集にご協力いただき、まことにありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

被災地の子どもの発育状況に関する研究  
 体格標準値（2000年乳幼児身体発育調査）と比較を行ったグラフについて

今回、3ファイルをお送りしております。

- ○○市\_20070301-20070831.xls（平成24年度収集対象分）
- ○○市\_20090301-20090831.xls（平成25年度収集対象分）
- ○○市\_20100601-20110430.xls（平成26年度収集対象分）

それぞれのファイルに下記シートが入っています。

- 「一覧」：月齢ごとの例数・平均値・標準偏差・最大値・中央値・最小値 の一覧です。
- 「新生児」「3ヶ月」「6ヶ月」「1歳6ヶ月」「3歳」：月齢ごとの例数・平均値・標準偏差・最大値・中央値・最小値です。「一覧」シートはこれらのシートをまとめて再掲したもののため、内容は同じです。
- 「1歳半男子」「1歳半女子」「3歳男子」「3歳女子」：グラフにそれぞれ対象児集団の身長や体重の平均値と中央値、95%信頼区間、そして体格標準値\*（2000年乳幼児身体発育調査）の平均値を図示して比較しています。平均値は（●）、中央値は（×）です。上下に延びている赤い線は95%信頼区間です。黒い線は体格標準値\*（2000年乳幼児身体発育調査）です。

有意差は、表の『平均値の差：P値』の欄の値が、0.05未満であれば統計的に有意差があると判断します。

- 有意差があると判断された場合に考えられること
  - 日本人の体格は一般的に北や東の方で大きく、南や西の方で小さいことがわかっております。
  - 子どもの食欲は、季節の影響も受けやすく、秋など、気候の良いときは、体重をつけやすい傾向にあります。
  - 子どもは季節によっていろいろな病気になります。冬は風邪をはじめとして呼吸器の感染症や、ウイルス性の胃腸炎などにかかりやすいため、むしろ体重が増えにくくなることもあります。
- 注意点
  - 同時に図示される中央値（×）と平均値（●）が大きく離れる場合には、とても大きな（あるいは小さな）体重の値の子どもがいて、その子どもの値で平均値が大きく変わっているかもしれないので解釈は慎重にすべきです。

\*体格標準値とは、2000年（平成12年）度に厚生労働省及び文部科学省が発表した身体測定値データから算出した基準値で、日本人小児の体格を評価する際には標準値として用いられています。

詳細およびグラフ作成ツールは下記URLからダウンロードしてご確認・ご利用いただけます。

<http://www.niph.go.jp/soshiki/07shougai/hatsuiku/>

乳幼児身体発育評価マニュアル（PDFファイル：約3MB）

集団の評価用ツール（計算用コンピュータ・ソフトウェア）（エクセルファイル）

ご質問がありましたら、下記までご連絡ください。  
 データ収集担当 [ ]・[ ] [ ]@ [ ]（平成27年3月20日まで）

平成27年3月21日以降は千田教授にご連絡ください。  
 岩手医科大学医学部小児科 教授 千田勝一 [ ]



〇〇市\_20070301 - 20070831.xls

岩手県〇〇市

男の子

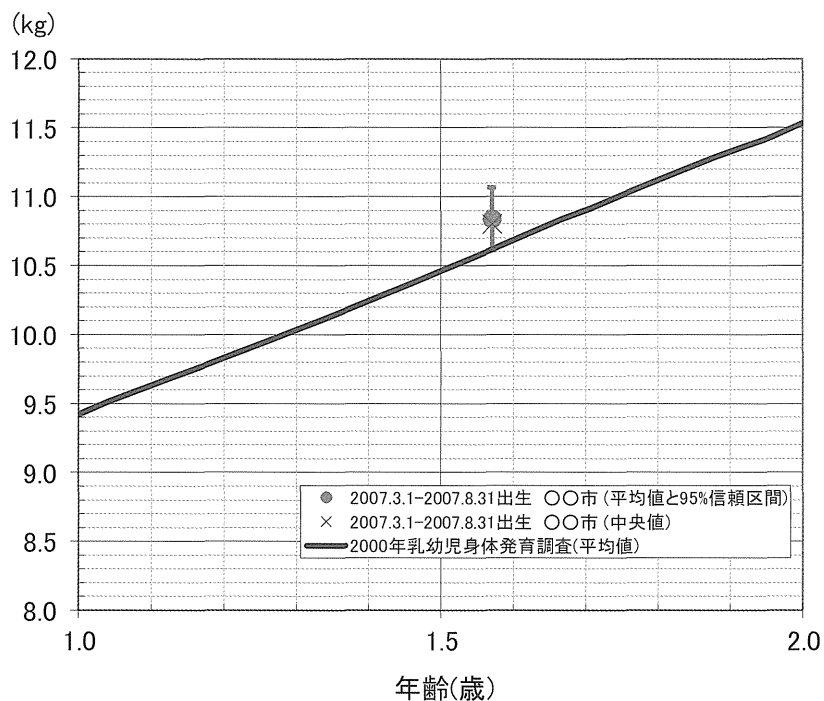
	新生児		3~4か月				6~7か月				1歳6か月			3歳		
	出生時 身長	出生時 体重	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	月齢	身長	体重
例数	77	77	72	71	72	72	72	70	72	72	72	71	72	62	62	62
平均値	48.9	3068.6	3.5	63.2	6955.6	41.3	6.5	68.5	8236.3	43.8	18.8	81.9	10.8	42.7	96.9	14.9
標準偏差	2.2	366.8	0.6	2.4	737.6	1.1	0.7	2.2	830.9	1.4	1.2	2.8	1.0	1.6	3.4	1.5
最大値	54.2	4314.0	5.0	69.0	8500.0	45.0	10.0	73.5	10260.0	47.0	22.0	90.6	13.2	48.0	105.1	19.5
中央値	49.0	3052.0	3.0	63.5	6987.5	41.0	6.0	68.5	8250.0	44.0	19.0	82.0	10.8	42.0	97.0	15.0
最小値	42.8	2148.0	3.0	58.0	5412.0	39.0	5.0	64.5	6020.0	40.5	12.0	74.5	9.0	40.0	87.6	12.4
	(cm)	(g)		(cm)	(g)		(cm)	(g)		(cm)	(kg)		(cm)	(kg)		(kg)

女の子

	新生児		3~4か月				6~7か月				1歳6か月			3歳		
	出生時 身長	出生時 体重	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	頭囲	月齢	身長	体重	月齢	身長	体重
例数	59	59	58	57	58	58	54	53	54	53	50	50	50	44	44	44
平均値	48.0	2974.1	3.5	61.4	6552.3	40.4	6.6	66.7	7853.1	42.5	18.9	80.5	10.3	42.7	95.5	14.5
標準偏差	2.3	461.5	0.6	2.3	730.4	1.1	0.9	2.1	791.7	1.3	0.9	2.5	0.8	1.3	3.2	1.2
最大値	52.0	4060.0	5.0	65.8	8960.0	43.1	11.0	73.4	10030.0	46.0	22.0	87.0	11.8	47.0	103.4	16.6
中央値	48.4	3002.0	3.0	62.0	6450.0	40.0	6.0	67.0	7840.0	42.0	19.0	80.5	10.2	42.5	95.5	14.6
最小値	40.5	1550.0	3.0	55.4	4805.0	38.5	6.0	63.0	6500.0	40.5	18.0	75.8	9.1	41.0	86.3	11.8
	(cm)	(g)		(cm)	(g)		(cm)	(g)		(cm)	(kg)		(cm)	(kg)		(kg)

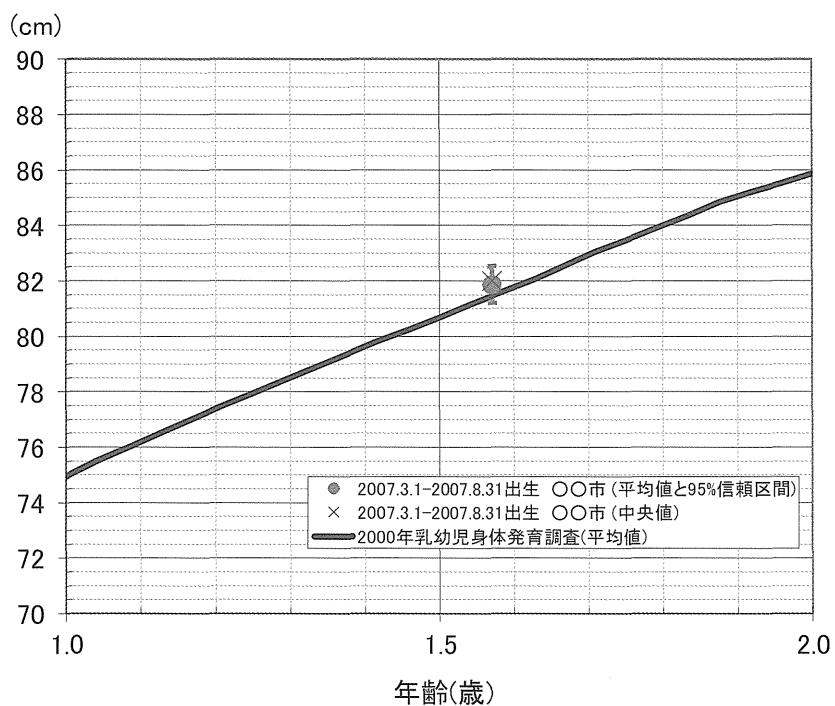
体重kg(男子)

	人数	年齢 平均値	体重			
			平均値	標準偏差	平均値の95%信頼区間	中央値
2007.3.1-2007.8.31出生 ○○市	72	1.6	10.8	1.0	(10.6-11.0)	10.8
2000年乳幼児身体発育調査			10.7			
			平均値の差: P値=0.332			



身長cm(男子)

	人数	年齢 平均値	身長			
			平均値	標準偏差	平均値の95%信頼区間	中央値
2007.3.1-2007.8.31出生 ○○市	71	1.6	81.9	2.8	(81.2-82.6)	82.0
2000年乳幼児身体発育調査			81.8			
			平均値の差: P値=0.713			



平成26年8月5日

青森県〇〇町 保健福祉課保健指導係  
ご担当 〇〇〇〇様

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班  
研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

被災地の子どもの発育状況に関する研究 結果のご返却

残暑の候、ますますご発展のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年度にご提供いただきました〇〇町の平成19年3月から8月生まれの子どもと平成21年3月から8月生まれの子どもの健診データにつきまして、全国水準と比較を行った結果をお送りいたします。どうぞご活用ください。

本年度は、平成22年6月から平成23年4月生まれの子どものデータの提供をお願いする予定でございますので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

[ 研究事務局 ]

東北大学医学部小児科内 /

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究事務局

担当：田中総一郎

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

TEL：022-717-7289

FAX：022-717-7290

HP：<http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/index.html>

(東北大学小児科のホームページの一番下段からも入れます)

平成26年12月24日

青森県〇〇町保健福祉課  
ご担当 〇〇〇〇様

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）  
東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班  
研究代表者 東北大学医学部小児科教授 呉 繁夫

被災地の子どもの発育状況に関する調査研究 結果のご返却

拝啓 歳末の候、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、〇〇町よりご提供いただきました平成22年6月から平成23年4月生まれの子どもの乳幼児健診データにつきまして、全国水準と比較を行った結果をお送りいたしますのでどうぞご活用ください。

当研究班では、3年間にわたりまして収集いたしましたデータをもとに、被災による子どもたちの発育への影響を明らかにし、皆様へご報告させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

末筆ながら、健やかなる新年をお迎えになられますよう、心よりお祈り申し上げます。

敬具

[ 事務局 ]

東北大学医学部小児科内 /

東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究班事務局

担当：田中総一郎

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

TEL：022-717-7289 FAX：022-717-7290

HP：<http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/index.html>

(東北大学小児科のホームページの一番下段からも入れます)